

2年連続で20名以下
このままでは募集停止

今年度で、修明高等学校鮫川校（以下、「鮫川校」と表記）の入学人数が2年連続で募集定員の二分の一以下となっている状況です。さらに、平成二十五年の入学人数が募集定員の二分の一以下となった場合、平成二十六年以降の募集を停止することとなり、三年後には閉校となります。

これは県教育委員会（以下、「県教委」と表記）が策定した県立高等学校改革計画（平成十一年三月策定）によって、一学年一学級規模の分校において、入学人数が募集定員の二分の一以下の状態が三年続いた場合、その地域の進学を希望する生徒にとって通学可能な高等学校が近隣にあることなどを条件に、原則として生徒の募集を停止することが定められています。

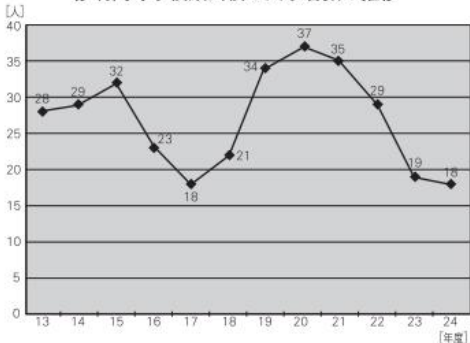
創立64年を迎えた 地域に根差した学校

鮫川校は昭和二十三年に県立東白川農業高等学校定時制課程鮫川分校として設置されました。

それ以降、時代の流れとともに校舎移転や名称変更などを経て、今年で創立六十四年を迎え、卒業生は千五百名を超えます。

これまで、鮫川村の大自然や少人数クラスの特徴を生かし、きめ細やかな指導、生徒一人一人の個性の伸長と基礎学力の定着を図ってきました。また、地元住民の指導を受けながら行ってきた大豆栽培やゲートボール大会、環境美化活動など地域との結びつきを重視した学校づく

修明高等学校鮫川校の入学人数の推移



地元住民の指導で大豆の種まきをする生徒



第一回高等学校改革懇談会の様子

りに努めてきました。しかし、少子化やライフスタイルの変化による都市部への人口流出などから県内の生徒数も減少を続けています。県教委からは平成十五年

度から平成二十四年度までの県南地区の中学校卒業生数が四百七名（約二〇％）減少しているとの報告がありました。また、平成三十三年度までさらに二百七十一名（約一七％）減少する見込みとなっています。鮫川校においても例外ではあ

りません。募集定員が四十名に対して入学人数は平成二十年度が三十七名、平成二十三年度が十九名、平成二十四年度が十八名となっています。

「廃校にしたいくない」 存続への強い思い

県教委は九月十二日、同校で高等学校改革懇談会を開きました。懇談会には、村や村教育関係者、有識者ら十名が出席。県

教委の担当者が県内の高等学校設置状況や鮫川校の概要、入学人数の推移などを説明し、生徒減少に伴う高校改革の基本的な方向性などについて意見が交わされました。

懇談会の中で、鮫川校が募集停止となった場合、子どもの力だけで通える高校がほかにないことや村外からの入学希望者が多い実態などを訴えました。大楽村長は「本村にとって鮫川校はあって当たり前という感覚だった。存続の危機を迎えている状況に反省している。村民が鮫川校を大切に思い、誇りを持って通える学校にしたい」と話しました。また、同校同窓会の蛭田昌一会長は「なんとか定員の二分の一以上である二十名以上を確保して、鮫川校をすばらしい学校にしていきたい。廃校にはしたくない」と存続への強い思いを話しました。

第二回目の懇談会は十二月に行われる予定です。中学校卒業予定者の希望進路も明確なことで、より具体的な方向性や対策について意見交換していきます。さらに平成二十五年十月まで検討を重ね、生徒募集の決定をします。



修明高等学校鮫川校 CLOSE UP SAMEGAWA 存続の危機